

(二) 大川・龍豊院のシダレザクラ  
町文化財 昭和五十四年七月指定

大川の龍豊院は、室町時代の終わりの弘治元年（一五五五年）に真言宗のお寺として創立されました。その後荒廃していたのを、永禄の初め頃（一五六〇年頃）、伊豆市大見の最勝院七代の師笑山精真和尚が来て、山号を大川山、寺号を龍豊院として曹洞宗に改めました。

お寺の歴史などは明治十二年（一八七九年）に火事があり、建物をはじめ多くのものが燃えてしまったため、詳しいことはわかりませんが、お寺の境内には樹齢約四〇〇年といわれるシダレザクラの古木があります。

このシダレザクラは、木の高さが約八メートル、根の周りは約五・五メートルあり、樹齢だけでなく、木の形や枝の張り具合も見事です。花はひとつの花が咲く単弁花で、四月になると新緑の若葉とともに、薄いピンク色の花を咲かせます。

この木の幹には、火事の時の焼け跡が残って

いたため、静岡県天然記念物として文化財に指定されなかったと言われています。また、お寺は明治十七年（一八八四年）に再建されました。

